

特別展

藍と紅のものがたり

2025 年 7 月 29 日（火）～9 月 23 日（火・祝）

公益財団法人 大倉文化財団 大倉集古館



① 《白木綿地下り蔦模様浴衣》
江戸時代後期～明治時代、
松坂屋コレクション J.フロントリテイリング史料館蔵
【前期展示】



② 《絹地紅板締め花鳥松皮菱模様着物》
江戸時代、個人蔵
【後期展示】

【展示作品】 約 100 点（展示替あり）

【概要】

古来より、人々は衣服を染めるために様々な染料を使用してきました。19 世紀の中頃に合成染料が誕生するまでは、動植物から抽出した天然の染料によって色を手に入れていました。天然染料をつかった日本の色彩文化において欠かせないものが、植物のアイとベニバナから生まれる藍色と紅色です。手間のかかる工程による伝統的な藍染と紅花染は、それぞれ独自の文化を築いてきました。

藍は古くから日本で親しまれ、様々な染色技法と結びついてきました。木綿とともに広まった江戸から現代にいたる藍染の着物や浴衣を、素材や染色技法などに着目して紹介します。

一方、古くから貴族のあこがれの色であった紅は、草木染の中でも花の部分を使用する珍しい染物です。江戸時代の公家や武家女性が着用した美しい打掛や、紅板染めによって染色された下着、そして山形において紅花染の再興を担った人々による作品を紹介します。

本展では、ふたつの色と染料技術の歴史、そこから生まれた衣装や衣服を紹介し、その魅力を見つめなおします。

◆藍のものがたり

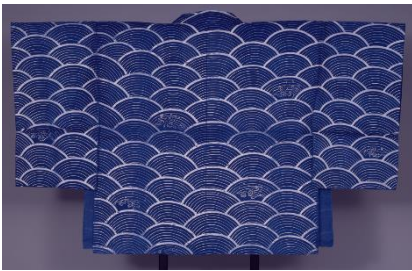
明治の頃「ジャパンプルー」と称された藍色。藍は古くから日本で親しまれ、様々な染色技法と結びついてきました。江戸から現代に至る藍染の着物や浴衣を、素材や染色技法などに着目して紹介します。

第1章「藍染めによる染色のはじまり」古くから使われた麻や絹、江戸時代以降に生産拡大した木綿に染められた、采女装束や法被、浴衣や胴服など、藍染着物のバリエーションをご紹介します。(図③④)

第2章「浴衣」江戸時代に広まった銭湯によって、木綿の浴衣が着用される機会が増え、銭湯への往復のみならず、夕涼みや花火見物といった行楽にも着用されるようになりました。本章では涼しさと呼ぶ着物－浴衣－をお楽しみいただきます。(図①⑤)

第3章「長板中形」とは、木綿の浴衣地を染めるのに用いられた模様型のこと。表裏両面を防染することで藍と白が際立つ仕上がりとなります。人間国宝の型染め作品とともに、両面が柄違いの幻の染物「籠染ゆかた」などを展示します。(図⑥)

第4章「現代の藍染」では、藍染めに魅了された作家や工房の作品を紹介します。久留米絣などによる藍、養蚕から染め織まで一貫して作られた作品、長板中形を守る人々、天然染料と向き合う人々、同じ藍は一つもない様々な藍の形をご紹介します。(図⑦⑧)



③《縹地青海波模様唐衣(采女装束のうち)》江戸時代、奈良県立美術館蔵
【前期展示】



④《納戸麻地熨斗目取り紋散し模様被衣》江戸時代後期、松坂屋コレクション
J.フロントリテイリング史料館蔵
【後期展示】



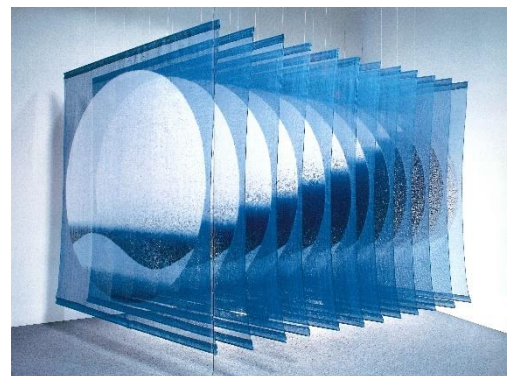
⑤《木綿地藍染市松模様絞り浴衣》明治時代、今昔西村蔵
【前期展示】



⑥松原伸生
《麻地長板中形漣模様浴衣》
2019年、個人蔵 【後期展示】



⑦秋山眞和
《絹地藍染花織着物》2015年頃、個人蔵
【後期展示】



⑧福本潮子《時空 Time Space》
1989年、染・清流館蔵【通期展示】

◆紅のものがたり

中国から日本に3世紀には伝来したとされる紅花。美しく高貴な染料であり、貴重な化粧品としても活用され、古くから大切にされてきました。江戸時代には最上川流域が紅花の一大産地となり、生花から上質の紅花染料「紅餅」を作って京都へと運ばれました。

第1章「紅花と染織」では、江戸時代の女性が着用した格式の高い着物である打掛など（図⑨⑩⑪）を取り上げます。打掛は紅花で染めた綸子や縮緬などの絹地に、金銀の刺繍で模様を施した豪華な作品です。あでやかな紅の着物をお楽しみください。

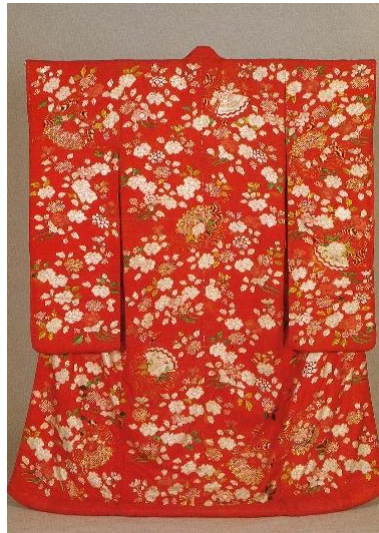
第2章「紅板締め」では、襦袢や下着といった女性が内に着る服飾に多用され、今では幻の染色技法ともいわれる「紅板締め」の下着（図⑪）や裂地を紹介します。

第3章では「紅花染の広がり」として、子供用の着物や浮世絵の中に表現された紅花染を紹介します。

第4章「現代の紅花染」明治以降、化学染料の普及などにより、紅花栽培は衰退の一途をたどりましたが、しかし、昭和に入り再興の機運が高まり、平成30年には山形の紅花栽培と紅花交易が日本遺産「山寺が支えた紅花文化」として認定されました。最上紅花をつかった美しい作品（図⑫⑬）を紹介するとともに、紅花染めの工程を示す絵画（図⑭）や資料もご紹介します。



⑨《綸子地紅花染飛鶴模様疋田絞り振袖》、江戸時代、個人蔵
【8/5～8/11 展示】



⑩《紅綸子地扇面に花模様絞り繡振袖》
江戸時代、河北町紅花資料館蔵
【後期展示】



⑪《絹地紅板締め松樹鶴模様下着（胴抜き）》
江戸時代、個人蔵
【前期展示】



⑫株式会社新田
《国産真綿引紬「朝陽」》
2024年、(株)新田蔵
【後期展示】



⑬山岸幸一（赤崩草木染研究所）
《双紬織着物 寒染 ⑧「紅花追分」》2010年
作家蔵【前期展示】



⑭青山永耕《紅花屏風》
江戸時代後期～明治時代、
山寺芭蕉記念館蔵
【通期展示】

【展覧会名】 特別展「藍と紅のものがたり」

【会期】 会 期：2025 年 7 月 29 日（火）～9 月 23 日（火・祝）

前期：7 月 29 日(火)～8 月 24 日(日)

後期：8 月 26 日(火)～9 月 23 日（火・祝）

【開館時間】 10：00～17：00（入館は 16：30 まで）

【休館日】 休館日：毎週月曜日（ただし 8/11、9/15 は開館）、8/12（火）、9/16（火）

【入館料】 一般 1,500 円、大学生・高校生 1,000 円、中学生以下無料
※同会期中のリピーターは 500 円引き（一般、大学生・高校生料金お支払いの方のみ）
※20 名様以上の団体は 500 円引き
※障がい者手帳、被爆者手帳をご提示の方とその同伴者 1 名は無料
※お着物（和装）でご来館の方は 300 円引き
※ミュージアムパスポート 5,500 円
割引併用不可

【主催】 公益財団法人 大倉文化財団 大倉集古館

【協力】 米沢市上杉博物館

株式会社ホテルオークラ、特種東海製紙株式会社、大成建設株式会社

【企画協力】 株式会社イデッフ

【会場】 公益財団法人 大倉文化財団 大倉集古館

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 2-10-3（オークラ東京前）

TEL:03-5575-5711、FAX：03-5575-5712

<https://www.shukokan.org/>

【アクセス】

- ・東京メトロ南北線 六本木一丁目駅中央改札口（泉ガーデン方面）より 5 分
- ・東京メトロ日比谷線 神谷町駅 4b 出口より 7 分
- ・東京メトロ銀座線・南北線 溜池山王駅 13 番出口より 10 分
- ・東京メトロ日比谷線 虎ノ門ヒルズ駅 A2a 出口より 8 分

【展覧会に関するお問い合わせ】

（広報担当） 高野明子（学芸補助）（takano.a@shukokan.org）

（展覧会担当） 平塚泰三（学芸部長）（hiratsuka.t@shukokan.org）

四宮美帆子（主任学芸員）（shinomi@shukokan.org）

※3 人宛にご連絡下さい、（■を@に変えてください）

電話：03-5575-5711、FAX：03-5575-5712

【イベント】

■講演会 1

「ジャパンプルー」

講師：福本潮子氏（藍染美術家）

日時：8月9日（土）14：00 から（約 1 時間）

会場：大倉集古館 地下 1 階ホール

聴講料：無料（ただし入場には入館券が必要です）

定員：60 人（事前申込制、先着順）

お申込み：大倉集古館 TEL:03-5575-5711（月～金 10:00～17:00）

■講演会 2

「紅と藍の板締め」

講師：石塚広氏（染色研究家）

日時：9月6日（土）14：00 から（約 1 時間）

会場：大倉集古館 地下 1 階ホール

聴講料：無料（ただし入場には入館券が必要です）

定員：60 人（事前申込制、先着順）

お申込み：大倉集古館 TEL:03-5575-5711（月～金 10:00～17:00）

■担当学芸員によるギャラリートーク

担当：平塚泰三（当館学芸部長）、四宮美帆子（当館主任学芸員）

日時：8月5日（火）、8月28日（木）、9月9日（火）各 14:00 から（約 1 時間）

会場：大倉集古館 展示室 1 階展示室 EV 前にお集まりください。

お申込み：不要（ただし入場には入館券が必要です）

■オークラ東京、関連イベント

「オークラ東京 ランチタイム・スペシャルトークイベント ～ふたつの色の魅力と伝統の染織技法～」
染織作家による貴重なお話と中国料理「桃花林」のオリジナルランチコースをお愉しみのあと、休館日を利用した特別鑑賞会でゆっくりとご覧いただけます。

講師：秋山眞和氏（「綾の手紬染織工房」創設者/伝統工芸士、現代の名工）

新田源太郎氏（「よねざわ新田」5代目当主/日本工芸会正会員、伝統工芸士）

日時：9月1日（月） 11：00 ～ 13：30（10:30 開場）

※イベント参加者限定 大倉集古館 特別開館（イベント終了後～15：30）

会場：オークラ東京 宴会場「オーチャード」（プレステージタワー 2 階）

料金：15,000 円（消費税・サービス料込み、お食事・大倉集古館入館券付き）

定員：150 名

協力：ハースト婦人画報社「美しいキモノ」料金：15,000 円

お申込み：オークラ東京イベント係 TEL:03-3224-7688（月～金 10:00～17:00、祝日を除く）

特別展 藍と紅のものがたり
報道内覧会のご案内

2025 年 7 月 28 日（月）

（受付）13：00～ （作品解説等）13：15～14：00 （終了）15：00

担当学芸員より展覧会のご説明や作品解説を行い、ご質問にお答えいたします。

展示室内をご撮影いただけます。

ご出席いただける場合は、下記フォームにご記入の上、FAX かメールにてご返信ください

FAX 03－5575－5712

E-mail takano.a●shukokan.org（●を@に変えてください）

大倉集古館 高野明子 宛

■ご担当者様情報

貴社名	
ご担当職・ご氏名	
電話番号・FAX 番号	
メールアドレス	

■参加者（上記以外）

ご所属・役職名	ご氏名

【会場】大倉集古館 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 2-10-3（オークラ東京正面玄関前）

- ・東京メトロ南北線 六本木一丁目駅改札口（泉ガーデン方面）より 5 分
- ・東京メトロ日比谷線 神谷町駅 4b 出口より 7 分
- ・東京メトロ銀座線・南北線 溜池山王駅 13 番出口より 10 分
- ・東京メトロ日比谷線 虎ノ門ヒルズ駅 A2 出口より 8 分

※やむをえない日時や内容の変更・中止をする場合がございます。 ご来館前に当館 HP をご確認ください。

特別展 藍と紅のものがたり展

広報用画像申請書

宛先：大倉集古館 学芸部 高野明子 宛

FAX：03-5575-5712

E-mail：takano.a■shukokan.org（■を@に変えてください）

■図版使用に際しての注意

- ・本展覧会の紹介を目的とする内容にのみご使用ください。
- ・ご申請いただいた記事・番組に限り、本展の広報用画像の使用が可能です。
- ・使用後のデータは破棄してください。・ウェブ上で使用する場合は、コピーガード等を施してください。
- ・画像への文字のせ、加工などを希望する場合はご相談ください。
- ・画像使用の際は必ず作品キャプションを載せてください。
- ・画像使用の掲載誌や放送 DVD は 1 部ご惠贈ください。

希望	No	作品
	1	《白木綿地下り葛模様浴衣》江戸時代後期～明治時代、 松坂屋コレクション J.フロントリテイリング史料館蔵 【前期展示】
	2	《絹地紅板締め花鳥松皮菱模様着物》江戸時代、個人蔵 【後期展示】
	3	《縹地青海波模様唐衣（采女装束のうち）》江戸時代、奈良県立美術館蔵 【前期展示】
	4	《納戸麻地熨斗目取り紋散し模様被衣》江戸時代後期、 松坂屋コレクション J.フロントリテイリング史料館蔵 【後期展示】
	5	《紺木綿地市松模様絞り浴衣》明治時代、今昔西村蔵 【前期展示】
	6	松原伸生《麻地長板中形漣模様浴衣》2019 年、個人蔵 【後期展示】
	7	秋山眞和《絹地藍染花織着物》2015 年頃、個人蔵 【後期展示】
	8	福本潮子《時空 Time Space》1989 年、染・清流館蔵 【通期展示】
	9	《綸子地紅花染飛鶴模様疋田絞り振袖》江戸時代、個人蔵 【8/5～8/11 展示】
	10	《紅綸子地扇面に花模様絞り縹振袖》江戸時代、河北町紅花資料館蔵 【後期展示】
	11	《絹地紅板締め松樹鶴模様下着（胴抜き）》江戸時代、個人蔵 【前期展示】
	12	株式会社新田《国産真綿引紬「朝陽」》2024 年、株式会社新田蔵 【後期展示】
	13	山岸幸一（赤崩草木染研究所）《双紬織着物 寒染®「紅花追分」》2010 年、作家蔵 【前期展示】
	14	青山永耕《紅花屏風》江戸時代後期～明治時代、山寺芭蕉記念館蔵 【通期展示】

ご住所		
貴社名		
ご担当者名		
TEL/FAX	TEL:	FAX:
E-mail		
媒体名		
発行放送予定日		